

めぐろ  
グリーンデーブック  
2022

# 目黒区いきもの住民台帳

身近に暮らすみどりのなかまたち

List of wild grass of Meguro City

# めぐろく や そう 目黒区 の 野草



地球のいのち、つないでいこう



ささえあういのちの輪 目黒区生物多様性

目黒区



目黒区は、生物多様性地域戦略を定め、自然と共生するまちづくりを推進しています。その基礎資料とするため、区内のいきものの変化を捉える身近な生物調査や専門機関によるみどりの実態調査\*を継続しています。

「目黒区いきもの住民台帳」は、これらの調査の結果を区で記録された生物の種名リストとして集計したものです。住民台帳の名は、身近な場所に暮らす『いきもの』たちを、私たちとともにすむ『目黒区の住民』としてとらえたもので、2009年におよそ3,000種類の動植物等を掲載した暫定版を公開しました。今回は人々の暮らしに役立っている野草について紹介するものです。

野草の分類や生態等の記述については岩槻秀明氏(いわつきひであき、千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会種子植物分科会委員)にご監修していただきました。

いきものは、自然の中でそれぞれ欠かすことのできない固有の働きをしながら、地域の自然を形づくっています。気象の変化など身の回りの環境の変化が見られる現在、いきものの記録は私たちのまちの自然の現状を知り、生物多様性\*の保全や回復を進めていく資料として大変重要なものとなっています。

目黒区生物多様性地域戦略「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」では、野鳥を都市における生物多様性確保のシンボルとして捉え、エコロジカルネットワーク※の形成などを目指しています。この冊子が身近な環境に目を向ける機会となり、学習や地域活動の参考になれば幸いです。

作成にあたりご指導をいただきました岩槻秀明氏ほか、観察記録などの情報をいただきました多くの区民の方々、定点観測員\*、自然通信員\*、いきもの発見隊\*、駒場野自然クラブ\*等参加者、公園活動登録団体\*駒場野公園自然観察舎、駒場野公園野の花クラブ、菅刈ネット21、中目黒公園花とみどりの学習館、区立小学校ほか皆様のご協力に感謝申し上げます。

目黒区都市整備部みどり土木政策課

目黒区は、東京23区の西南部に位置し、渋谷区、品川区、大田区、世田谷区に隣接します住宅系用途地域が8割以上を占める住宅地を主体としたまちで、面積は14.67km<sup>2</sup>、人口は278,677人(2023年2月1日時点)です。

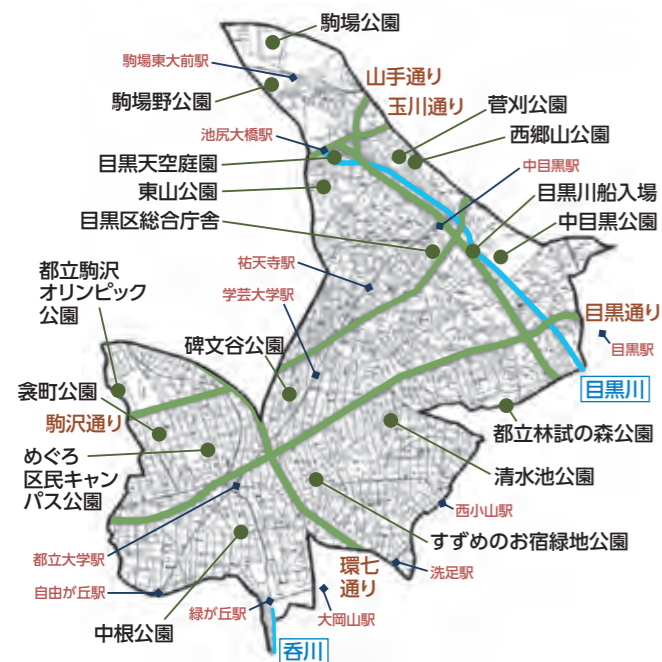


図 主な公園等

総合庁舎のある上目黒2丁目は緯度35度38分、経度139度41分です。

緑被率※は17.3%で東京23区中13位、水面が見える河川は、目黒川の大橋より下流、呑川の緑が丘3丁目の下流です。

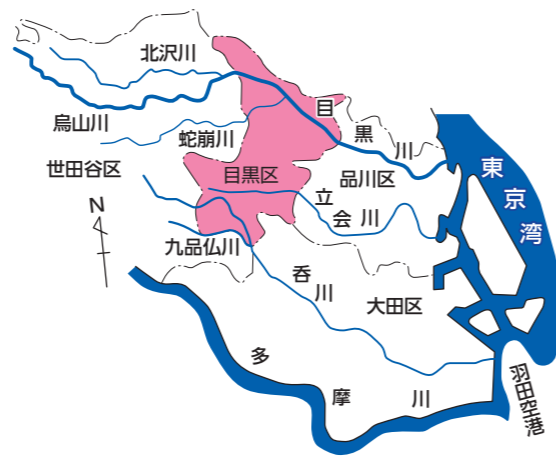


図 目黒区の水系(2000:目黒区基本計画より)

\*用語説明(〔区〕は区の事業をあらわす)

いきもの発見隊(いきものはけんたい) イベント型住民参加調査。親子などの参加者が身近ないきものを探して記録し、自然の大切さや街に自然を呼び戻す工夫を考える〔区〕

エコロジカルネットワーク(えころじかるねとわーく) 散在する緑地を緑道や街路樹でつなぎ、いきものがすみ、移動できる緑地を効果的に配置した緑地のネットワーク(目黒区生物多様性地域戦略より)

公園活動登録団体(こうえんかつどうとうろくだんたい) 公園の清掃・花壇管理等の維持管理活動や、地域住民を対象としたイベント企画運営活動を行うボランティア活動団体。「住民参加による公園活性化のための要

網(ようこう) (2001(平成13)年2月要綱(ようこう)制定)により区が登録し、区は一定の支援を行う〔区〕

駒場野自然クラブ(こまばのしぜんくらぶ) 駒場野公園の貴重な自然を地域の方の参加により守り伝える活動で、駒場野公園が開園した昭和61年から続いている。駒場野公園の雑木(ぞうき)林(ばやし)管理や自然観察などの活動を年間を通して行い、身近な自然とのふれあいやいきものとの出会い、草刈りや炭焼きなどの作業が子どもたちの貴重な原体験や学習の場となっている〔区〕

自然通信員(しぜんつうしんいん) 身近な自然の観察記録を区に報告するボランティア。記録は生物季節や経年変化の把握などに活かされている〔区〕

生物多様性(せいぶつたようせい) ささまざまな「自然」が、そこに特有の「個性」をもついきものがあり、それぞれの命がつながりあっていること。食料や水の供給、気温等の安定、水質の浄化、私たち人間へのうるおいや安らぎの付与などの「生態系サービス」と呼ばれる「自然の恵み」は生物多様性のバランスの上に成立している

生物多様性地域戦略(せいぶつたようせいちいきせんりやく) 生物多様性基本法第13条に基づき、自治体が策定する生物多様性の保全に関する基本的な計画。目黒区では自然と共生する社会を目指し「目黒区生物多様性地域戦略 ささえあう生命(いのち)の輪(わ)野鳥のすめるまちづくり計画」を策定している

定点観測員(ていてんかんそくいん) 自然通信員のうち、公園や庭など身近な場所を観測地として、開花日・野鳥などの初鳴き日、初見日など四季の変化を継続的に観察するボランティア〔区〕

みどりの実態調査(みどりのじったいちょうさ) 目黒区みどりの条例に基づき、定期的実施する区内の緑の実態に関する調査。昭和47(1972)年度、52(1977)年度、60(1985)年度、平成4(1992)年度16(2004)年度、26(2014)年度に実施している〔区〕

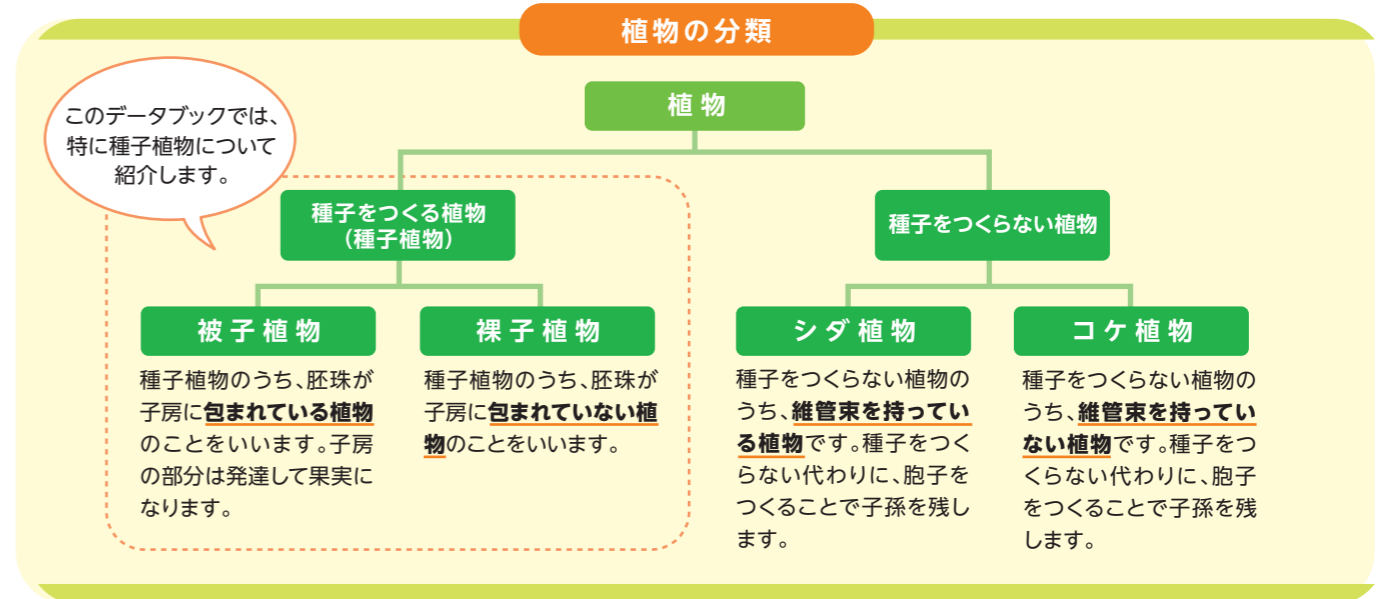
緑被率(りよくひりつ) 上空から見て、樹幹や草地などみどりで覆われた面積が占める割合

# 人々の暮らしと野草

## まえがき

野草と聞くと、みなさんはどんな植物をイメージしますか。山奥にひっそりと生えているものをイメージするかもしれませんが、みなさんがよく目にする植物も【野草】と呼ばれる植物かもしれません。「雑草じゃないの?」と思われるかもしれませんが、雑草という名の植物はありません。それぞれの植物に名前があり、どこに生えているかで野草と呼ばれたり、雑草と呼ばれたりしますが、野草と呼ぶか、雑草と呼ぶかは、あくまでその人の主観に過ぎません。

植物は大きく「被子植物」「裸子植物」「シダ植物」「コケ植物」の4つに分類されます。一般に野草と呼ばれる植物は主に「種子植物」の「草本(そうほん:いわゆる草のこと)」です。このデータブックでは、特に種子植物に着目し、目黒区のみなさんの身近な野草の種類や生態などを紹介しています。

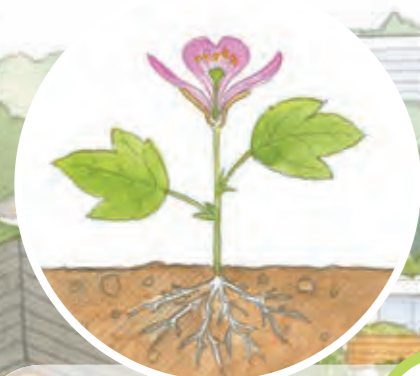


めぐる区報でも野草の目撃情報を募集し、たくさんの情報をいただきました。



めぐる区報令和4年7月1日号で、区に新たに導入された電子申請システムを用いていきもの情報を募集し、22件の情報をいただきました。





植物のからだのつくり P4-5



光合成について P6



植物の豆知識 P11



ササは木?草? P12



植物の生存戦略 P7



植物に関わる  
目黒区の伝承・地名 P13



目黒区内での取り組み紹介 P14



人の暮らしの  
身近な植物 ~七草~ P9

気をつけたい外来種 P8



専門家コラム P15

植物を見分けてみよう P10

目黒区で確認されている  
野草リスト P16



# 植物のからだのつくり 1

植物のことを知るために、まずは植物のからだのつくりを紹介します。植物は種類ごとに見た目が異なりますが、ある程度共通するからだの特徴があります。ここでは、種子をつくる被子植物を例にして、植物の基本的なからだのつくりを紹介します。

## 花

花はタネをつくって子孫を残すために大切な器官です。めしべ、おしべ、花びら、がくがあります。

**つくり**

花びら・がくのどちらも葉が変形したもので、まとめて花被(かひ)といいます。花びらとがくが明確に区別できる種類もありますが、区別できない種類もあります。さらに、種類によっては、花びらが無いもの、花びら・がくとも無いものもあります。

**めしべ**

**[柱頭]** めしべの先端にあり花粉を受け取る部分です。

**[花柱]** めしべの柱頭と子房の間の部分。受精時は柱頭についた花粉からこの中に花粉管が伸びます。

**[子房]** 被子植物のめしべの下部にある膨らんだ部分です。胚珠を保護しています。受精後は、発達して果実になります。

**[胚珠]** めしべにある生殖器官です。受精後は、発達して種子になります。

**内部**

**おしべ**

**[葯]** おしべの先端にあり、花粉を作ります。

**[花糸]** おしべの葯を支える役割があります。花糸のない植物もあります。

**POINT!**

単葉か複葉かを見分けるポイントは、葉の付け根に芽や托葉があるかどうかです。葉の付け根に注目してみましょう!

## 葉

葉は太陽光を浴びて、生きるために必要な養分を作っています。(光合成についてはP.6)

**単葉** 葉身が1つである葉をいいます。

**[葉脈]** 葉にある筋状のものです。これは、水分や養分の通り道である維管束です。葉脈には2種類あり、網目状の「網状脈」と主要な脈が縦方向に並んだ「並行脈」があります。

**[葉身]** 光合成を行う葉の主要な部分です。

**[葉柄]** 葉身と茎をつなぎ、葉の付け根にある柄のような部分です。

**[托葉]** 葉の根元にある葉身以外の葉のような器官を指します。芽や若い葉を保護する役割があります。

**複葉** 葉身が分裂して2つ以上に分かれた葉のことをいいます。

実はここまでが**1枚の葉**です!

**葉の付き方**

葉の付き方にも規則性があり、それぞれ名前があります。

互生      対生      輪生

**複葉の種類**

奇数羽状複葉      偶数羽状複葉      二回羽状複葉

# 植物のからだのつくり 2

## 茎

茎は植物がたおれないように、からだ全体を支える役割もあります。また、茎には水分や養分を通すための管があります。

**つくり**

**直立茎**      **ほふく茎**

**茎の断面**

**[道管]** 根から吸い上げた水分や養分が通る管です。

**[師管]** 葉でつくられた養分が通る管です。

**[維管束]** 道管と師管を合わせたものを維管束といいます。

単子葉類      双子葉類

**色々な茎の形**

竹の植物の「つる」も茎です。他の植物などに絡みやすくなるため、柔軟性があります。

植物にあるトゲは、茎や葉、托葉などが変形したものです。

**単子葉類と双子葉類**

**単子葉類**はタネから最初に出てくる葉(子葉)が1枚の植物です。**双子葉類**は子葉が2枚の植物です。ただ、例外もあり、ニリンソウなどは双子葉類でも子葉が1枚です。

単子葉類      双子葉類      ニリンソウ

## 根

根はふつう地面の下にあり、土の中の水分や栄養分を吸収し、植物全体に送る役割を持つ器官です。また、植物のからだを支えるという重要な役割もあります。

**つくり**

**[根毛]** 若い根の先端から少し離れた部分に密生する毛です。表皮細胞の一つが伸びたもので、表面積を広げることで水分や栄養分を効率よく吸収します。

**[根冠]** 根の先端には細胞分裂が多く行われる成長点があり、それを保護する役割があります。

**根の種類**

**直根**      **ひげ根**      **不定根**

**[主根]** 芽生えた種子の幼根が発達した茎に連なる太い根です。

**[側根]** 主根の側面に生える細い根です。

成長の止まった主根から、その下部に多数生える細い根です。単子葉類によく見られます。

茎の節などの主根以外の場所から二次的に生える不定根という根もあります。

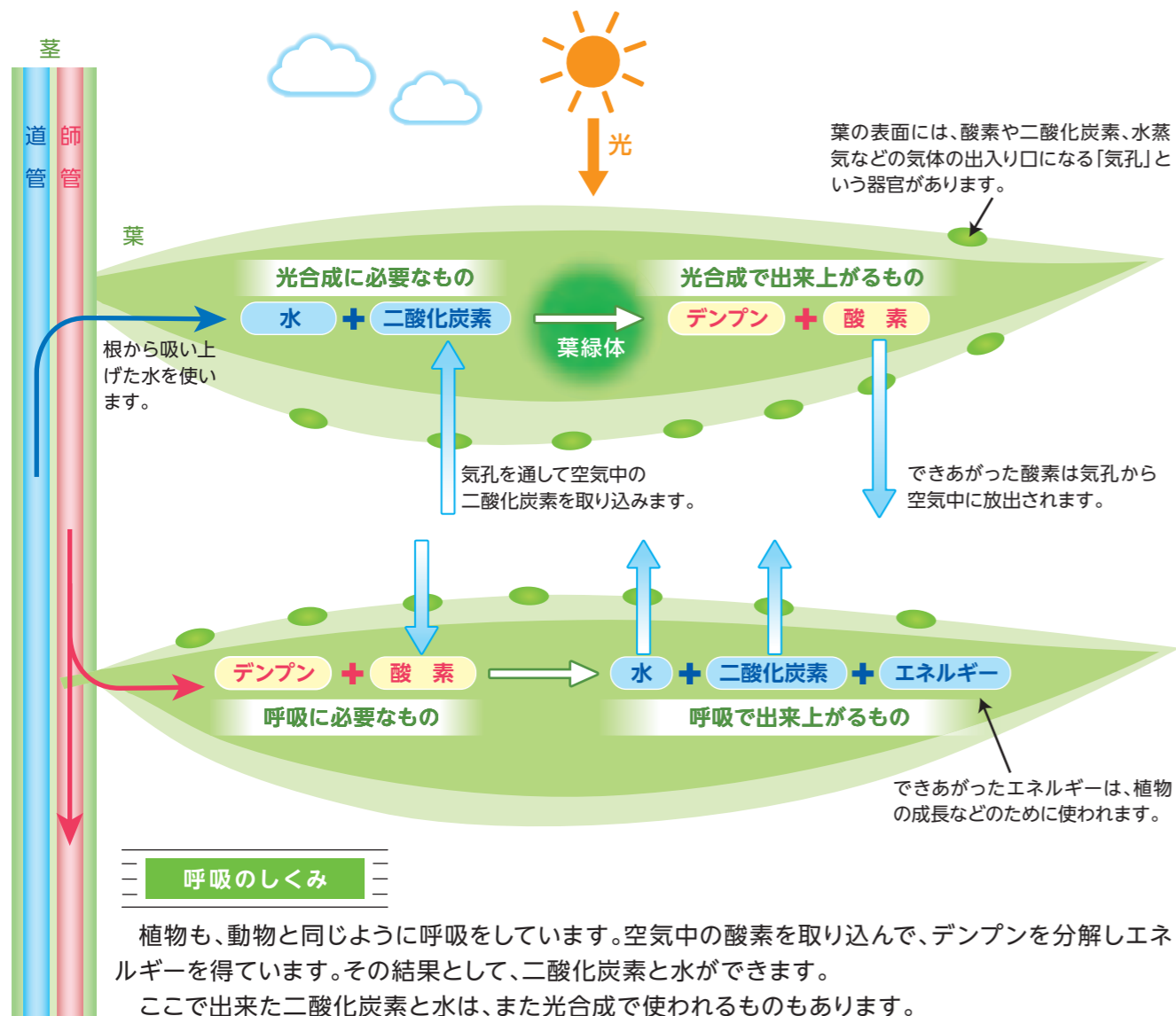


# 光合成について

## 光合成のしくみ

植物が葉で太陽光などの光を吸収して、デンプンなどの養分を作り出す仕組みを「光合成」といいます。光合成は、葉の細胞の中にある葉緑体という場所で行われます。葉緑体には葉緑素(クロロフィル)という緑の色素があり、これが光を吸収しています。

光合成には二酸化炭素と水、光が必要です。二酸化炭素は空気中から取り入れ、水は根から道管を通じて吸い上げます。光合成で作られた養分(デンプンなど)はスクロースという糖分にされ、師管という管を通して植物全体に運ばれます。



## 呼吸のしくみ

植物も、動物と同じように呼吸をしています。空気中の酸素を取り込んで、デンプンを分解しエネルギーを得ています。その結果として、二酸化炭素と水ができます。ここで出来た二酸化炭素と水は、また光合成で使われるものもあります。

## 多くの光を受け取るために…

植物にとって、光はとても重要な要素になります。植物はできるだけ多くの光を浴びられるよう、葉の付き方を工夫しています。互い違いになるように葉をつけたり、葉の大きさを調整しながら、全ての葉に光が当たるようにしています。



ヒメムカシヨモギ ハハコグサ

# 植物の生存戦略

植物はタネを残すために、様々な生存戦略をとっています。生存戦略の一例を紹介します。

## タネを作るために ~受粉方法の戦略~

多くの植物はタネをつけるために、受粉をしなければなりません。受粉をするために、花粉を飛ばす必要があるのですが、その方法も種類によって様々です。

### 虫媒花



花におとずれる虫に花粉を運んでもらうものを虫媒花といいます。花は花粉を運んでもらう代わりに、虫に蜜を与えています。このように植物の受粉を助けるいきものをポリネーターといいます。



ニホンミツバチ(ミツバチ科)



過去に公開しているグリーンデータブック2021「目黒区のハチ」でも、少し紹介していますので、そちらもご覧ください。

### 風媒花

花粉症の原因の多くは、この風媒花です。

風の力を利用して花粉を飛ばす植物もいます。雄花は風に花粉を運んでもらうのですが、雌花に届くかどうかは風任せなので、大量に花粉を飛ばす必要があります。



イネ



オオブタクサ

## タネの飛ばし方 ~タネを広げる戦略~

植物は子孫を残すため、さまざまな方法でタネを遠くに運ぼうとします。タネをできるだけ遠く、広い範囲に運べるように綿毛をつけたり、他のいきものに運んでもらうなどの工夫をしています。

- タネに綿毛をつけて、風の力で遠くに飛ばします。
- 動物にくっついて、遠くに運んでもらいます。よく「ひっつき虫」なんていわれます。
- スミレのなかまは、2種類の 방법으로タネを運びます。①果実の皮がタネにじわじわと圧力をかけ、弾き飛ばします。②タネの先端にアリの好物をつけて、アリに運んでもらいます。



カントウタンポポ(キク科)



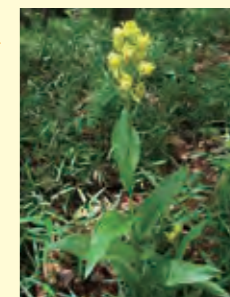
コセンダングサ(キク科)



**タチツボスミレ**  
学名: *Viola grypoceras*  
雑木林のふちなどで見られます。葉っぱはハート形でふちがぎざぎざしています。

## コラム 菌と共生するラン類

ランのなかまはタネを風で遠くに運ぶため、タネを小さく軽くしています。いろんな場所に運ばれるのですが、タネが小さいため、発芽するための養分を蓄えていません。発芽するために、土の中にある「ラン菌根菌」という菌類に協力してもらいます。ラン菌根菌をタネの中に入り込ませ、ラン菌根菌から窒素やリンなどの養分をもらい発芽します。ランが成長して光合成ができるようになると、そのままラン菌根菌と一緒に暮らします。このように、他のいきものと一緒に暮らしていくことを共生といいます。ランは土の中のラン菌根菌との共生が断たれると枯れてしまいます。そのため、むやみに採取しないようにしましょう。



**キンラン**  
学名: *Cephalanthera falcata*  
環境省RL2020で絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。4月~6月にかけて鮮やかな黄色い花を咲かせます。





# 気をつけたい外来種



外来種とは、もともとその地域にいなかったいきもので人間の活動によって持ち込まれたもののことをいいます。外国から持ち込まれたいきものは国外外来種と呼ばれ、国内のものでも、もともとすんでいなかった地域に持ち込まれた場合は国内外来種と呼ばれます。

## 特定外来生物

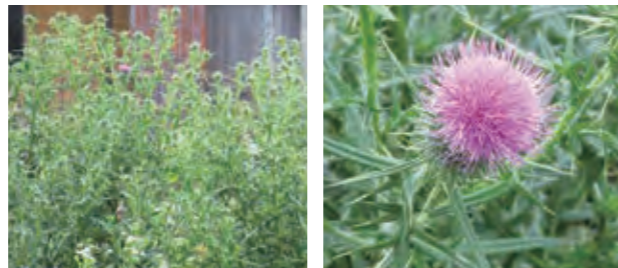
外来生物の中で、特に生態系や農業などに甚大な影響がある、もしくはその可能性があるものの中から、外来生物法により指定されているいきもののことです。法律で栽培等が禁止されています。



オオキンケイギク  
[キク科]  
学名: *Coreopsis lanceolata*  
原産地は北アメリカ。  
キク科の多年草で、5月～7月に花をつけます。

## 生態系被害防止外来種

特定外来生物に指定されている種類以外にも生態系や農業などに悪影響を及ぼす可能性のある種類があります。規制などはされていませんが、外来種の被害を予防することが大切です。



アメリカオニアザミ  
[キク科]  
学名: *Cirsium vulgare*  
原産地はヨーロッパ。  
100cmほどの高さになるアザミのなかまです。  
7月～10月に花をつけます。  
トゲが硬く鋭いため、注意してください。

## 特定外来生物ではありませんが注意が必要です！



ワルナスビ[ナス科] 学名: *Solanum carolinense*  
原産地は北アメリカ。  
6～9月にナスの花に似た花を付けます。葉や茎にトゲをもっています。繁殖力が非常に強く、他のいきものや農業などに悪影響を及ぼす可能性があります。

こんな植物を見つけたら

### 発見したら…

- 目黒区都市整備部みどり土木政策課まで情報をお寄せください。
- ご自分の所有地の場合は駆除にもご協力ください。

### 駆除する場合…

- 根元から株ごと引き抜きます。多年草で、わずかな根の断片からもすぐに生えてきます。
- タネや根を落とさないように袋を密閉して枯らせます。
- 自治体のごみ処理方法にしたがって処理して下さい。

環境省では、外来種による被害を予防するために、次のような「外来種被害防止三原則」を作成しています。

## 外来種被害防止三原則

1

### 【入れない】

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を入れない。



2

### 【捨てない】

飼育・栽培している外来種を捨てない。



3

### 【拡げない】

すでに野外にいる外来種を他の地域に拡げない。



# 人の暮らしの身近な植物 ～七草～



人の暮らしの身近にある植物を紹介します。七草という言葉は聞いたことがあるでしょうか。春の七草が有名かもしれませんが、実は、秋の七草もあります。



セリ



ナズナ



ゴギョウ(ハハコグサ)



ハコベラ(コハコベ)

江戸時代には歯磨き粉として使われていました。

邪気を払い万病を除くといわれ、無病息災を願って1月7日に七草がゆを食べる習慣があります。駒場野公園にある駒場野自然クラブでは、園内で七草を探す活動をしています。



実は現在、ホトケノザと呼ばれているのはシソ科の植物で、七草の「ホトケノザ」ではありません。



ホトケノザ(コオニタビラコ)



スズナ(カブ)



スズシロ(ダイコン)



ハギ



オバナ(ススキ)



クズ



ナadeshiko

万葉集にも詠まれた見て楽しむ七草です。

## 目黒区の花

かつては目黒の鷹狩りの場であった駒場野や畑のあぜなどに見られました。蝶形の紅紫色や白色の小さな花が群がって咲き、和歌にも詠まれ俳句の季語ともなる、さわめて美しい花です。古い株から新しい芽を出すこの花は、明るい未来を築く、私たちの目黒区を象徴する花です。



オミナエシ



フジバカマ



アサガオ(キキョウ)

すくすく立つ木(草)なので、ススキという名が付いたともいわれます。

海外では、日本産の外来種として厄介者扱いされています。

## その他の食べられる野草

※食べられる野草には、見た目が似ている別の種類もあります。食べる場合は、必ずきちんと調べてから食べるようにしましょう。

ヨモギ[キク科]  
学名: *Artemisia princeps*

道ばたや空き地などに生えています。葉の表面は緑色ですが、裏面は綿毛が密生して灰白色です。よもぎ餅の材料として有名で、若葉を茹でて使います。



ドクダミ[ドクダミ科]  
学名: *Houttuynia cordata*

葉っぱや茎を乾燥させたものは10種類(たくさんの意味)もの薬効があると言われ、「十薬」とも呼ばれています。





# 植物を見分けてみよう

いつも見ている植物の中には、同じものようで、実は細かく名前が分けられているものがあります。今回は、よく見かけるタンポポとエノコログサ(ねこじゃらし)の見分け方を紹介します。

## タンポポ [キク科]

### 見分けPoint! がいそうほうへん 外総苞片

#### 在来のタンポポ



**シロバナタンポポ**  
学名: *Taraxacum albidum*  
花は白色ですが、中心は黄色っぽい色になります。西日本で多く見られます。



**カントウタンポポ**  
学名: *Taraxacum platycarpum*  
名前の通り、関東地方に生えています。市街地では少なくなり、昔から残っている草地や土手などで見られます。

外総苞片が反り返りません。

外総苞片が反り返ります。(例外あり)

#### 外来のタンポポ



**外来性タンポポ種群 (セイヨウタンポポなど)**  
学名: *Taraxacum* spp.  
おもにヨーロッパ原産で、市街地を中心に広がっています。

## エノコログサ [イネ科]

### 見分けPoint! 穂の先・色

穂の先はあまり垂れ下がりません。穂の部分は花穂(かすい)といえます。



**エノコログサ**  
学名: *Setaria viridis*  
高さ: 約20cm~80cm  
道ばたや空き地など、いろいろな場所で見ることができます。

穂の先が大きく垂れ下がります。他に比べて大きさも見分けるポイントです。



**アキノエノコログサ**  
学名: *Setaria faberi*  
高さ: 約40cm~100cm  
全体的にエノコログサよりも大きく、穂が出る時期もやや遅めです。

穂の毛が金色です。



**キンエノコロ**  
学名: *Setaria glauca*  
高さ: 約20cm~50cm  
道ばたや空き地など、いろいろな場所で見ることができます。

今度、見かける機会があったら、どの種類が観察してみましよう!

# 植物の豆知識

植物の豆知識! 植物のクイズに挑戦してみよう。

## 第1問

公園や空き地などでよく見かける「ねこじゃらし」には、エノコログサという正式な名前があります。この「エノコロ」とは、どんな意味でしょうか。

## 第2問

日々の暮らしの中で、一度は見たことがあるかもしれない「面ファスナー」。ペタペタとものを止めたりするのに便利ですが、ある植物を参考に作られました。いったい、何の植物でしょうか。

### 第1問 答え

実は、このエノコロは犬を意味するといわれています。エノコログサの穂の形が、犬のしっぽに見えたことから、犬を意味する「イヌコロ」がなまったといわれています。(いろいろな説があるようです。) ちなみに、植物には動物の名前が含まれている種類も多くあります。

#### スズメ



小さいという意味でつけられています。



スズメノエンドウ [マメ科]      スズメノテッポウ [イネ科]

#### キツネ



「嘘」や「偽物」という意味でつけられている物が多いです。

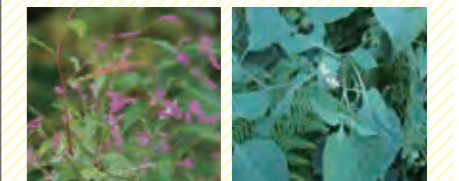


ケキツネノボタン [キンポウゲ科]      キツネノカミソリ [ヒガンバナ科]

#### イヌ



「有用な植物に似ているが違うもの(否いな)」、「役に立たないもの」という意味でつけられているのだとか。



イヌタデ [タデ科]      イヌホオズキ [ナス科]

### 第2問 答え

答えは、ゴボウの実です。ゴボウの実には小さな「かえし」がついていて、一度くっくと剥がれにくくなります。この構造に着目して、面ファスナーが開発されました。ちなみに、いきものの構造などを人間の暮らしに役立てることをバイオミメティクスといいます。



ゴボウ [キク科]

オオオナモミ [キク科]

野草で遊んでみよう!

~オオバコ相撲~

#### オオバコ (オオバコ科)



オオバコは道端や公園などによく生える多年草です。丈夫なからだを持ち、踏まれる事に強い植物です。



①オオバコ同士を絡めて、引っ張り合います



②切れなかった方が勝ちです!



## ササは木？草？

木と草の違いは何でしょうか。また、ササは木と草のどちらに分類されるのでしょうか。それぞれ、木と草、ササの特徴を見てみましょう。

### 木(木本)の特徴



- 木の幹(草の茎にあたる)には、形成層という成長する部分があり、年々、幹が太くなっていきます。
- 地上に出ている同じ幹は2年以上生き続けます。

### 草(草本)の特徴



- 草の茎は、木の幹のように硬くなったり、年々、太くなることはありません。
- 地上に出ている茎は、1年以内に枯れてしまいます。(茎が枯れても、株が生きている種類もあります。)

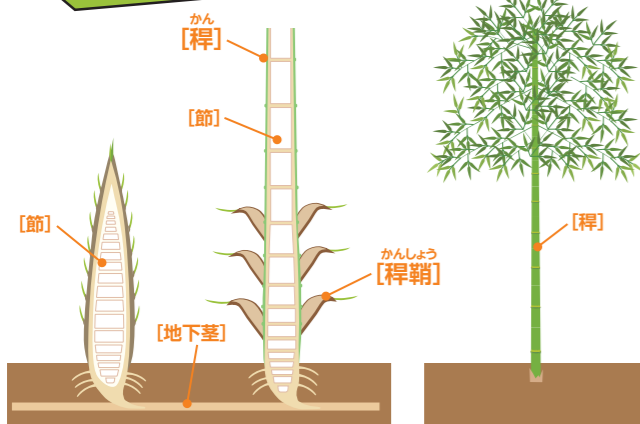
### ササの特徴



- ササの稈(草の茎にあたる)は木の幹のように硬くなるものの、ある程度まで成長すると、それ以上太くなりません。
- 地上に出ている同じ稈は2年以上生き続けます。

このように、ササは草の「茎が年々、太くならない」という特徴と木の「地上に出ている同じ幹が2年以上生き続ける」というどちらの特徴も持ち合わせています。どちらの特徴も持っているため、木と草の間ともいえる植物です。

### ササとタケの違い



基本的には成長した時に、<sup>かん</sup>稈に<sup>かんしょう</sup>稈鞘(いわゆる、タケノコの皮)がついているかどうかで区別します。タケは成長した時に、稈鞘がすぐに剥がれ落ちますが、ササは残ります。



碑文谷公園のアズマネザサ



すずめのお宿緑地公園のタケ

### コラム

#### 目黒区にあった？～シブヤザサ～

シブヤザサというササをご存知でしょうか。昭和のはじめ頃、西郷山で見つかったササに、植物学者の牧野富太郎が「シブヤザサ」という和名をつけたといわれています。このシブヤザサは、現在でも目黒区の西郷山公園と菅刈公園で生育しており、発見当時、西郷山の一部が渋谷区であったことから、「メグロザサ」ではなく「シブヤザサ」と命名したのかもしれませんが。

しかし、このシブヤザサは、もともと西日本から持ち込まれたものかもしれないのです。かつて、西郷隆盛の弟である西郷従道の邸宅庭園があった場所が、現在の菅刈公園です。また、邸宅の北東部にあった丘陵地が西郷山公園になります。これらの邸宅や庭園を造る際に、銘石や樹木が西日本から持ち込まれましたが、その際に、シブヤザサも持ち込まれたのではないかとされています[1]。



シブヤザサ



西郷山公園

[1]三樹 和博「メダケ属ネザサ節植物の東西日本における分枝形態の分化」植物地理・分類研究70(2):127-134 2022

## 植物に関わる目黒区の伝承・地名

植物の中には、目黒区の歴史に深く関わっている種類もあります。ここでは、植物が関係している目黒区の伝承や地名について紹介します。

### 鷺草伝説

かつての自由が丘・緑が丘の一角は衾村(ふすまむら)の「谷畑(やばたけ)」と呼ばれ、竹やぶと大根畑とわずかな田んぼがあるだけの農村でした。谷向(やむかい)、谷鷺草(やさぎそう)、谷権現(やごんげん)など江戸時代の小地名からも、武蔵野の寒村らしい風情がうかがえます。当時、農家はわずか60戸ほどだったそうです。

地名にあるサギソウはラン科の多年草で高さが約30センチメートル、盛夏のころに白鷺の飛ぶ姿に似た美しい花を咲かせます。熊野神社や九品仏(くほんぶつ)あたりの湿地や田んぼの畔には明治・大正のころまで自生していました。

室町時代の末ごろ、吉良氏が敵軍に世田谷城を囲まれた際、援兵を奥沢城に頼もうとしました。しかし、人も馬も城を出ることができず、日頃飼いならしていた白鷺に書状をつけて放しました。ところが、白鷺は不幸にも途中で撃ち落とされてしまいます。その無念がこもって可憐な草となり、この地に生えたというものが目黒に伝わる伝説のひとつです。また、世田谷の九品仏あたりの白鷺伝説では、吉良頼康の側室、常盤姫の悲恋の物語となっています。



サギソウ(鷺草) [ラン科]  
学名: *Habenaria radiata*



ちょっと似ているかも？



一般的に白鷺といわれる鳥はダイサギ、チュウサギ、コサギです。(写真はコサギ)

### 菅刈の地名の話



菅刈公園

現在、菅刈という名前が使われている区内の施設には、「菅刈住区センター」や「菅刈小学校」「菅刈公園」などがあります。住所は青葉台になりますが、江戸時代に「菅刈荘」「菅刈庄」と呼ばれていたことが地名の由来のようです。



ホンモンジスゲ  
【カヤツリグサ科】  
学名: *Carex pisiformis*  
菅刈の菅(スゲ)はホンモンジスゲではないかといわれています。

### 油面の地名の話



かつて、目黒区では菜種が栽培されていました。菜種から絞った菜種油は祐天寺などへ灯明用として奉納されていました。そのため、租税が免除され、「油免」と呼ばれるようになり、「免」が「面」に転じて「油面」になったことが地名の由来のようです。 ※諸説あります。



アブラナ  
【アブラナ科】  
学名: *Brassica rapa*  
5～6月頃に実が熟して中に茶色っぽいタネができます。春の時期に黄色い花を咲かせる、いわゆる「菜の花」です。





## 目黒区内での取り組み紹介



### 【駒場野公園】野の花クラブ

駒場野公園で野の花クラブとして活動されている瀬戸さんにお話を聞きました!



野草園では、四季を肌で感じることができます。



瀬戸 由紀子さん

#### Q. 活動を始めたきっかけは?

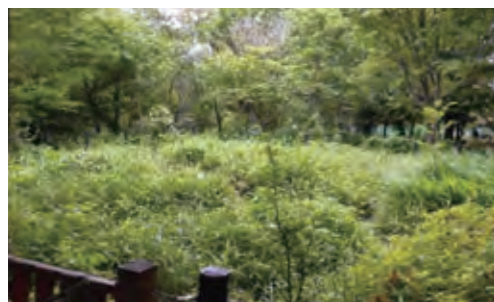
ここは昔、東京教育大学の農場試験場でした。初代の植物の先生と目黒区と、野の花が好きな人が集まり、ここに生えていた貴重な植物を残したいという思いから野草園を作りました。

#### Q. 活動内容は?

野草の維持管理を行っています。保全する種を明確にして、守り育てる活動をしています。

#### Q. 今後の活動は?

これからも野草園を残していきたいので、いろんな人に知っていただき、活動に共感して参加する仲間たちが増えるといいなと思います。



野草園の様子



活動は毎月第1、第3日曜日の午前中に行っています。ご興味のある方は、どうぞお越しください。



### 【菅刈公園】菅刈ネット21

菅刈公園で菅刈ネット21として活動されている関さん、坂本さんにお話を聞きました!

未来に郷土種を継承していきたいです。



関 恵美子さん、坂本 尚史さん

#### Q. 活動を始めたきっかけは?

菅刈公園は、以前、国鉄の官舎でしたが、マンション建設が計画された際の調査で、貴重な自然が残されていることが分かりました。マンション建設の計画から一転、その自然を活かす公園作りが進められ、地域の皆さんが集まって保全活動を始めました。

#### Q. 活動内容は?

野草の保全を含めた公園の維持管理・自然体験教室である菅刈椎塾すげかりしいじゅくの開催・生物多様性の保全林事業と多岐に渡って活動をしています。公園としての機能を持たせながら、保全するエリアを決めて管理をしています。

#### Q. 今後の活動は?

野草の育成には様々な条件が必要なので、次世代にノウハウを継承していきたいです。また、野草の「種類」だけではなく「量」も増やしたいです。特にホトトギス、オミナエシ、カワラナデシコなどの郷土種の復活を目指して、守りながら育てていければと思います。ゆくゆくは郷土種を無料配布し、家庭の庭先などにも広げていけたらな、と思います。



保全している郷土種の名前と写真を園内に掲示しています。

## コラム 植物と生物多様性

### 岩槻 秀明(千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会種子植物分科会委員)

植物は、生態系ピラミッドの一番下にあり、すべての動物の命を支える「緑の下の力持ち」です。植物が光合成で作出す養分は、動物にとって「生きるエネルギー」として必要不可欠です。もちろんわたしたち人間も、巡り巡ってその恩恵にあずかっています。光合成に伴って放出される酸素も、生命の維持には欠かせません。

そして野草の生える空間は、地域のいきものにとって大切な生活の場でもあります。ところが何らかの理由で野草の種類数が減少すると、それに連動するようにいきもの種類数も減ってしまいます。

例えば昔ながらのススキ草原。これはススキを主体とした原っぱで、もともとはキキョウやオミナエシ、オキナグサなど、四季折々の日本の野花が咲き、多様ないきものがくらす賑やかな環境でした。ところが身近なススキ草原の多くはセイタカアワダチソウやメリケンカルカヤなどの外来種に占領され、いきもの種類数も激減してしまいました。

また雑木林は、生物多様性に富む環境ですが、その維持には人の手が必要です。しかし生活様式の変化に伴い手入れがされなくなり、ササ類が繁茂しているところも少なくありません。結果としてキンランなど林床の野草は消え、生物相も単調化しています。

ところで野草は、人の生活にも直接役立っています。古くは茅葺屋根や生活用品の材料、草木染め(例:コブナグサ、八丈島の織物「黄八丈」)などに使われ、飢饉時の食糧にもなりました。また、野草に含まれる成分は、医薬や工業などの分野にも活用されています。

人と自然の間にすっきり距離ができてしまった現代社会。とはいえ、わたしたち人間も自然の恩恵を受けながら命をつなぐ、生態系の一員であることには変わりありません。もちろん足元に咲く小さな野花も、同じひとつの命。野草を愛でながら、そこから始まる命のつながりに思いをはせ、それを絶やすことなく、次の世代にしっかり引き継いでいきたいですね。



写真1:メリケンカルカヤに占領された草原



写真2:コブナグサ。湿った野原に自生し、八丈島の伝統工芸品「黄八丈」に使われる



# 目黒区で確認されている野草リスト

## (1) このリストについて

1. 目黒区が保有するいきもの情報※1をもとに、以下の条件で野草を抜粋して作成した。

- ・陸生の草本※2のうち、シダ植物や野菜、園芸品種を除くもの
- ・区民参加調査において自然観察員又は一般区民が確認したもの
- ・区民が確認した際に「植栽・栽培されている」という記録をつけていないもの※3

※1:目黒区都市整備部みどり土木政策課が保有する自然環境等に関する記録をデータベース化し、2009年にホームページなどで公開した「目黒区いきもの住民台帳暫定版」を基本とし、2022年までの記録を加えて更新したもの。種の同定資料がないために従前のリストから削除した記録もある。

※2:このリストに掲載しなかった水生の草本は、「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の水辺のいきもの」(2021:目黒区)に掲載している。

※3:区民が確認した野草のなかには、「植栽・栽培されている」という記録がついていなくても、実際には植栽・栽培されている野草や種名を誤って記録したために実際には分布していない野草が含まれている可能性がある。しかし、過去の記録をすべて確認し、自生しているか、種名の記録が正しいかを確認することは難しいことから、このリストにはこれらの種名をそのまま掲載した。

ただし、明らかに植栽・栽培されたものや種名を誤って記録したと判断できるものについては、それぞれ注釈をつけた。

2. 科の分類および科と科内の配列、学名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2022年11月7日更新)に従い、掲載されていない種の学名は出典を示した。

3. 保護上重要な種は、和名に後にランクを略称で記載した。略称とカテゴリー名と基本概念については表1に示した。

4. 生態系被害防止外来種リストに記載されている種については、和名の後に以下の区分で記載した。

- ・特定外来生物 「\*特外」
- ・重点対策外来種 「\*外重点」
- ・その他総合対策外来種 「\*外その他」

## (2) このリストの見方

- ① 通し番号
- ② 保護上重要な種には和名のあとにランクを記載した。
- ③ 年代別に目黒区内で確認された記録を「○」で表記した。
- ④ 最新の記録を町丁目単位で記載した。

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
31 キツネノカミソリ 都VU <i>Lycoris sanguinea</i>				○	○	○

例)最新記録年月日(町丁目)

丁目は町名の後に数字で示した。例)駒場1丁目⇒駒場1

公園など観察場所の明確な地名があるものはその名称を町丁名のあとに記載した。

観察日の詳細記録がない場合は「-」で示した。例)1972/6/-

表1. 保護上重要な種

カテゴリー名	略称	基本概念(抜粋:詳細は原典を参照してください)※
絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性があるもの
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある 地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	※	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの
非分布	非	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。

※「環境省レッドリスト2020(2020:環境省)」及び「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)」による

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●センリョウ科</b>						
1 ヒトリシズカ <i>Chloranthus quadrifolius</i>				○		
2004/4/3(大岡山2)						
<b>●ドクダミ科</b>						
2 ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i>				○	○	
2017/6/14(中目黒2<中目黒公園>)						
<b>●ウマノスズクサ科</b>						
3 ウマノスズクサ 都VU <i>Aristolochia debilis</i>					○	
2016/6/8(中目黒2<中目黒公園>)						
<b>●サトイモ科</b>						
4 ムサシアブミ <i>Arisaema ringens</i>				○		○
2022/11/26(駒場2<駒場野公園>)						
5 ウラシマソウ <i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urashima</i>						○
2021/4/20(鷹番3)						
6 サトイモ <i>Colocasia esculenta</i> var. <i>esculenta</i>						○
2020/6/30(洗足1)						
7 カラスビシャク <i>Pinellia ternata</i>						○
2020/5/14(大岡山2)						
<b>●ヤマノイモ科</b>						
8 ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i>	○			○		
2001/9/30(中目黒2<中目黒公園>)						
9 ウチワドコロ※2 <i>Dioscorea nipponica</i>			○			
1977/-/(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
10 カエデコロ <i>Dioscorea quinquelobata</i>					○	
2008/9/7(駒場2<駒場野公園>)						
<b>●イヌサフラン科</b>						
11 ホウチャクソウ <i>Disporum sessile</i>	○	○		○		
2008/4/20(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
<b>●サルトリイバラ科</b>						
12 サルトリイバラ <i>Smilax china</i> var. <i>china</i>					○	
2003/11/26(大岡山2<東京工業大学>)						
<b>●ユリ科</b>						
13 ウバユリ <i>Cardiocrinum cordatum</i> var. <i>cordatum</i>						○
2021/7/18(駒場2<駒場野公園>)						
14 ヤマユリ <i>Lilium auratum</i>					○	
2009/6/25(大岡山2)						
15 オニユリ <i>Lilium lancifolium</i>						○
2022/7/24(駒場2<駒場野公園>)						

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●ラン科</b>						
16 ギンラン 都EN <i>Cephalanthera erecta</i>						
-/-/-						
17 マヤラン 国VU <i>Cymbidium macrorhizon</i>					○	
2009/7/5(駒場4<駒場公園>)						
18 サガミラン※1 <i>Cymbidium nipponicum</i>				○		
2008/-/(駒場4<駒場公園>)						
19 タシロラン 国NT <i>Epipogium roseum</i>						○
2010/7/7(駒場4<駒場公園>)						
20 ネジバナ <i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	○	○		○	○	○
2021/4/20(鷹番3)						
<b>●アヤメ科</b>						
21 ヒオウギ※3 都EX <i>Iris domestica</i>				○		
2009/6/24(上目黒2<目黒区総合庁舎>)						
22 ハナショウブ <i>Iris ensata</i> var. <i>ensata</i>			○			
1998/-/(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
23 シャガ <i>Iris japonica</i>				○	○	
2010/4/9(八雲5)						
24 ニワゼキショウ <i>Sisyrinchium rosulatum</i>	○					
1977/5/20(駒場4<駒場公園>)						
<b>●ススキノキ科</b>						
25 ノカンゾウ 都DD <i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>						○
2022/7/7(青葉台2<普刈公園>)						
26 ヤブカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	○	○		○		
2009/7/11(大岡山1)						
<b>●ヒガンバナ科</b>						
27 ノビル <i>Allium macrostemon</i>				○		
2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)						
28 ハマオモト <i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i>				○	○	
2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)						
29 ハナニラ *外その他 <i>Ipheion uniflorum</i>				○	○	
2010/4/29(大岡山1)						
30 ヒガンバナ <i>Lycoris radiata</i>		○		○	○	○
2021/9/21(柿の木坂1<呑川柿の木坂支流緑道>)						
31 キツネノカミソリ 都VU <i>Lycoris sanguinea</i>				○	○	○
2022/8/20(青葉台2<普刈公園>)						
<b>●クサスギカズラ科</b>						
32 ツルボ <i>Barnardia japonica</i>				○		
2008/9/7(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
33 ヤブラン <i>Liriope muscari</i>				○	○	
2022/8/15(青葉台2<普刈公園>)						
34 ノシラン <i>Ophiopogon jaburan</i>				○		
2005/1/25(駒場4<駒場公園>)						

※1:米倉浩司・梶田忠(2007-) 「植物和名一学名インデックスYList」(YList), <http://ylist.info> (2023年2月21日)

※2:本州中部以北に分布する種のため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。

※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)」において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。



種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●クサスギカズラ科</b>						
35 ジャノヒゲ <i>Ophiopogon japonicus</i>				○		
36 ナガバジャノヒゲ <i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>				○		
37 アマドコロ 都VU <i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>				○		
<b>●ツユクサ科</b>						
38 ツユクサ <i>Commelina communis</i>	○			○	○	○
39 ヤブミョウガ <i>Pollia japonica</i>				○		○
40 ノハカタカラカサ *外重点 <i>Pollia japonica</i>				○		
<b>●ショウガ科</b>						
41 アオノクマタケラン <i>Alpinia intermedia</i>				○		
<b>●イグサ科</b>						
42 クサイ <i>Juncus tenuis</i>				○		
43 スズメノヤリ <i>Luzula capitata</i>				○	○	○
<b>●カヤツリグサ科</b>						
44 エナシヒゴクサ <i>Carex aphanolepis</i>				○		
45 マスクサ <i>Carex gibba</i>				○		
46 ジュズスゲ <i>Carex ischnostachya</i>						
47 ヒコグサ <i>Carex japonica</i>				○		
48 アオスゲ <i>Carex leucochlora</i>				○		
49 コジュズスゲ <i>Carex macroglossa</i>				○	○	
50 ゴウソ <i>Carex maximowiczii</i>				○		
51 ホンモンジスゲ 都VU <i>Carex pisiformis</i>				○		
52 ヤブスゲ <i>Carex rochebrunii</i>				○	○	
53 シオクグ 都VU <i>Carex scabrifolia</i>				○	○	

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
54 チャガヤツリ <i>Cyperus amuricus</i>			○			
55 ヒメクグ <i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>				○		
56 ヒナガヤツリ <i>Cyperus flaccidus</i>			○			
57 アゼガヤツリ <i>Cyperus flavidus</i>			○			
58 コアゼガヤツリ <i>Cyperus haspan</i> var. <i>tuberiferus</i>			○			
59 コゴメガヤツリ <i>Cyperus iria</i>				○		
60 カヤツリグサ <i>Cyperus microiria</i>				○	○	○
61 アオガヤツリ 都NT <i>Cyperus nipponicus</i>			○			
62 ウシクグ <i>Cyperus orthostachyus</i>			○			
63 イガガヤツリ <i>Cyperus polystachyos</i>			○			
64 ハマスケ <i>Cyperus rotundus</i>			○	○		
65 テンツキ <i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>				○		
66 ヒデリコ <i>Fimbristylis littoralis</i>				○		
<b>●イネ科</b>						
67 ヤマヌカボ <i>Agrostis clavata</i>		○				
68 スカボ <i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>			○	○		
69 スズメノテッポウ <i>Alopecurus aequalis</i> var. <i>amurensis</i>			○	○		
70 ハルガヤ *外その他 <i>Anthoxanthum odoratum</i>			○			
71 コブナグサ <i>Arthraxon hispidus</i>				○		
72 カラスムギ <i>Avena fatua</i>				○		
73 カズノコグサ <i>Beckmannia syzigachne</i>				○		
74 ヤマカモジグサ <i>Brachypodium sylvaticum</i>				○		
75 コバンソウ <i>Briza maxima</i>				○		
76 イヌムギ <i>Bromus catharticus</i>						○

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●イネ科</b>						
77 キツネガヤ <i>Bromus remotiflorus</i>				○		
78 ノガリヤス <i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>			○			
79 チョウセンガリヤス 都VU <i>Cleistogenes hackelii</i>				○		
80 ジュズダマ <i>Coix lacryma-jobi</i>	○					
81 シロガネヨシ *外その他 <i>Cortaderia selloana</i>				○		
82 メヒシバ <i>Digitaria ciliaris</i>	○			○	○	
83 コメヒシバ <i>Digitaria radicata</i>					○	
84 アキメヒシバ <i>Digitaria violascens</i>				○		
85 イヌビエ <i>Echinochloa crus-galli</i>	○			○		
86 ケイヌビエ*1 <i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>aristata</i>				○		
87 タイヌビエ <i>Echinochloa oryzicola</i>						
88 オヒシバ <i>Eleusine indica</i>				○	○	
89 アオカモジグサ <i>Elymus racemifer</i>				○		
90 カモジグサ <i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>				○		
91 カゼクサ <i>Eragrostis ferruginea</i>				○		
92 コスズメガヤ <i>Eragrostis minor</i>				○		
93 ニワホコリ <i>Eragrostis multicaulis</i>				○		
94 トボシガラ <i>Festuca parvigluma</i>				○		
95 オオウシノケグサ <i>Festuca rubra</i>				○		
96 チガヤ <i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>				○		
97 ササガヤ <i>Leptatherum japonicum</i>				○	○	
98 アシボソ <i>Microstegium vimineum</i>				○	○	
99 ススキ <i>Miscanthus sinensis</i>		○		○	○	○

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
100 ネズミガヤ <i>Muhlenbergia japonica</i>				○		
101 ケチヂミザサ <i>Opismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>				○		
102 スカキビ <i>Panicum bisulcatum</i>				○	○	
103 オオクサキビ *外その他 <i>Panicum dichotomiflorum</i>				○		
104 シマズメノヒエ *外その他 <i>Paspalum dilatatum</i>				○		
105 チカラシバ <i>Pennisetum alopecuroides</i>	○			○		
106 アイアシ 都VU <i>Phacelurus latifolius</i>				○	○	
107 ミヅイチゴツナギ <i>Poa acroleuca</i>				○		
108 スズメノカタビラ <i>Poa annua</i>	○			○		
109 イチゴツナギ <i>Poa sphondylodes</i>				○	○	
110 ヒエガエリ <i>Polypogon fugax</i>		○				
111 イヌアワ <i>Setaria chondrachne</i>				○		
112 アキノエノコログサ <i>Setaria faberi</i>				○		
113 コツブキンエノコロ <i>Setaria pallidifusca</i>				○		
114 キンエノコロ <i>Setaria pumila</i>				○		
115 エノコログサ <i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i>	○			○	○	○
116 ネズミノオ <i>Sporobolus fertilis</i> var. <i>fertilis</i>				○	○	
117 シバ <i>Zoysia japonica</i>					○	
118 コウライシバ <i>Zoysia pacifica</i>				○		
<b>●ケシ科</b>						
119 クサノオウ <i>Chelidonium majus</i> ssp. <i>asiaticum</i>				○		○
120 ムラサキケマン <i>Corydalis incisa</i>	○			○	○	
121 タケニグサ <i>Macleaya cordata</i>				○		
122 ナガミヒナゲシ <i>Papaver dubium</i>				○	○	○

※1:米倉浩司・梶田忠 (2007-) 「植物和名一学名インデックスYList」(YList), <http://ylist.info> (2023年2月21日)



種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●キンポウゲ科</b>						
123 フクジュソウ <sup>※3</sup> 都非 <i>Adonis ramosa</i>				○		
2004/2/24(駒場2<駒場野公園>)						
124 コボタンヅル <i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitermata</i>			○			
1998/-/- (目黒区内)						
125 センニンソウ <i>Clematis terniflora</i>				○		
2008/-/- (駒場2<駒場野公園>)						
126 セリバヒエンソウ <i>Delphinium anthriscifolium</i>	○					○
2010/4/18(大岡山1<大岡山児童遊園>)						
127 ケキツネノボタン <i>Ranunculus cantoniensis</i>	○			○		
2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)						
128 ヒメウズ <i>Semiaquilegia adoxoides</i>				○	○	
2011/5/24(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
<b>●ユキノシタ科</b>						
129 チダケサシ 都VU <i>Astilbe microphylla</i>		○				
1985/7/5(駒場2<駒場野公園>)						
130 ユキノシタ <i>Saxifraga stolonifera</i>						○
2021/1/14(碑文谷1)						
<b>●ベンケイソウ科</b>						
131 コモチマンネングサ <i>Sedum bulbiferum</i>				○		
2008/6/1(駒場2<駒場野公園>)						
132 オカタイトゴメ <i>Sedum japonicum</i> ssp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>			○			
1997/-/- (中目黒2<中目黒公園>)						
<b>●ブドウ科</b>						
133 ノブドウ <i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>				○		
2009/9/26(大岡山2<東京工業大学>)						
134 ヤブカラシ <i>Cayratia japonica</i>				○	○	○
2022/7/8(目黒本町2)						
<b>●マメ科</b>						
135 ヤブマメ <i>Amphicarpea edgeworthii</i>				○		
2008/10/19(駒場2<駒場野公園>)						
136 ゲンゲ <i>Astragalus sinicus</i>				○		
2006/5/5(駒場2<駒場野公園>)						
137 タヌキマメ 都VU <i>Crotalaria sessiliflora</i>				○		
2004/9/3(駒場2<駒場野公園>)						
138 アレチヌスピトハギ <sup>※外その他</sup> <i>Desmodium paniculatum</i>				○	○	
2010/9/29(中目黒2<中目黒公園>)						
139 ツルマメ <i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>				○		
1997/-/- (駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
140 ヤハズソウ <i>Kummerowia striata</i>				○	○	
2008/8/3(駒場2<駒場野公園>)						
141 クズ <i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>				○	○	○
2020/7/27(東が丘1)						

※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。  
 ※4: 植栽・栽培されているものを記録した可能性がある。

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●カタバミ科</b>						
159 カタバミ <i>Oxalis corniculata</i>		○	○	○	○	○
2022/7/7(青葉台2<西郷山公園>)						
160 アカカタバミ <sup>※1</sup> <i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>				○		
2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)						
161 ムラサキカタバミ <i>Oxalis corymbosa</i>				○	○	
2016/4/12(柿の木坂3<呑川柿の木坂支流緑道>)						
162 オッタチカタバミ <i>Oxalis dillenii</i>			○			
1998/-/- (中目黒2<中目黒公園>)						
<b>●トウダイグサ科</b>						
163 エノキグサ <i>Acalypha australis</i>				○	○	
2015/9/7(八雲4)						
164 トウダイグサ <i>Euphorbia helioscopia</i>				○		
2009/2/7(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
165 コニシキソウ <i>Euphorbia maculata</i>					○	
2020/7/27<呑川柿の木坂支流緑道>						
166 チャボタイゲキ <i>Euphorbia peplus</i>				○		
2005/1/25(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
167 ヤマアイ <i>Mercurialis leiocarpa</i>					○	
2015/1/14(駒場2<駒場野公園>)						
<b>●コミカンソウ科</b>						
168 コミカンソウ <i>Phyllanthus lepidocarpus</i>		○		○		
2007/10/5(駒場2<駒場野公園>)						
169 ヒメミカンソウ <i>Phyllanthus ussuriensis</i>				○		
2008/8/17(駒場2<駒場野公園>)						
<b>●スミレ科</b>						
170 タチツボスミレ <i>Viola grypoceras</i> var. <i>grypoceras</i>	○			○	○	○
2021/3/16(自由が丘1<熊野神社児童遊び場>)						
171 アオイスミレ <i>Viola hondoensis</i>				○		
2008/12/21(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
172 ヒメスミレ <i>Viola inconspicua</i> ssp. <i>nagasakiensis</i>				○		
2008/4/6(駒場2<駒場野公園>)						
173 コスミレ <i>Viola japonica</i>				○		
2003/3/29(碑文谷6<碑文谷公園>)						
174 マルバスマシ <i>Viola keiskei</i>				○	○	
2011/4/13(中根2<中根公園>)						
175 スミレ <i>Viola mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>				○	○	○
2022/3/6(自由が丘3)						
176 ニオイスマシ <i>Viola odorata</i>	○			○	○	
2017/4/5(目黒2<目黒区民センター公園>)						
177 アカネスマシ <i>Viola phalacrocarpa</i>				○		
2004/3/- (駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)						
178 アメリカスマシサイシン <i>Viola sororia</i>				○		
1994/-/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)						

※1: 米倉浩司・梶田忠 (2007-) 「植物和名一学名インデックスYList」(YList), <http://ylist.info> (2023年2月21日)  
 ※4: 植栽・栽培されているものを記録した可能性がある。  
 ※5: 植栽・栽培されているハナテンジクアオイ(*Pelargonium x hortorum*)を誤って記録した可能性がある。  
 ※6: 従来セイヨウアブラナ(*Brassica napus*)とされてきたものは、そのほとんどがアブラナ(*Brassica rapa*)の誤認であることが明らかになっているため、目黒区においてもアブラナを誤って記録した可能性がある。



種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●アブラナ科</b>						
197 イヌガラシ <i>Rorippa indica</i>	○			○	○	
	2015/9/7(柿の木坂2)					
198 スカシタゴボウ <i>Rorippa palustris</i>				○		
	2009/1/11(駒場2<駒場野公園>)					
199 カキネガラシ <i>Sisymbrium officinale</i>				○		
	2004/5/14(大岡山2<東京工業大学>)					
<b>●タデ科</b>						
200 シャクチリソバ *外その他 <i>Fagopyrum dibotrys</i>				○		
	2004/10/25(中目黒2)					
201 イタドリ <i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i>				○		
	2009/2/7(駒場3<東京大学駒場Iキャンパス>)					
202 ツルドクダミ *外その他 <i>Fallopia multiflora</i>		○				
	1986/10/15(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
203 ヒメツルソバ *外その他 <i>Persicaria capitata</i>				○		○
	2021/4/1(柿の木坂3)					
204 ミズヒキ <i>Persicaria filiformis</i>	○			○	○	○
	2022/10/4(大岡山1)					
205 オオイスタデ <i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>	○	○		○	○	
	2010/9/20(大岡山1)					
206 イスタデ <i>Persicaria longiseta</i>	○			○	○	○
	2020/7/27<呑川柿の木坂支流緑道>					
207 オオケタデ <i>Persicaria orientalis</i>				○		
	2001/9/30(中目黒2<中目黒公園>)					
208 ハナタデ <i>Persicaria posumbu</i>				○		
	2008/9/21(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
209 ママコノシリヌグイ <i>Persicaria senticosa</i>	○					
	1978/9/25(駒場2<駒場野公園>)					
210 ミチヤナギ <i>Polygonum aviculare</i> ssp. <i>aviculare</i>				○		
	2008/8/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
211 スイバ <i>Rumex acetosa</i>	○					
	1977/4/19(駒場2<駒場野公園>)					
212 アレチギシギシ <i>Rumex conglomeratus</i>				○		
	2004/5/28(大岡山2<東京工業大学>)					
213 ギシギシ <i>Rumex japonicus</i>	○		○	○		
	2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)					
214 エゾノギシギシ *外その他 <i>Rumex obtusifolius</i>				○		
	2007/5/26(大岡山2<東京工業大学>)					
<b>●ナデシコ科</b>						
215 ノミノツヅリ <i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>					○	
	2019/3/25(柿の木坂3)					
216 ミミナグサ <i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>	○			○	○	
	2017/2/26(碑文谷2)					
217 オランダミミナグサ <i>Cerastium glomeratum</i>					○	
	2015/4/9(柿の木坂3)					

※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●アカネソウ科</b>						
237 アカネ <i>Rubia argyi</i>				○		
	2008/9/7(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●リンドウ科</b>						
238 フデリンドウ <i>Gentiana zollingeri</i>					○	○
	2021/3/30(緑が丘1)					
<b>●キョウチクトウ科</b>						
239 ガガイモ <i>Metaplexis japonica</i>				○		
	2008/8/3(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●ヒルガオ科</b>						
240 コヒルガオ <i>Calystegia hederacea</i>	○			○	○	
	2010/10/23(大岡山1)					
241 ヒルガオ <i>Calystegia pubescens</i>					○	○
	2022/8/22(中根1)					
242 ネナシカズラ <i>Cuscuta japonica</i>			○			
	1995/9/14(駒場2<駒場野公園>)					
243 マルバルコウ <i>Ipomoea coccinea</i>	○					
	1976/10/27(駒場2<駒場野公園>)					
244 マメアサガオ <i>Ipomoea lacunosa</i>		○				
	1988/9/10(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●ナス科</b>						
245 ワルナスビ <i>Solanum carolinense</i>			○	○		○
	2020/7/27<呑川柿の木坂支流緑道>					
246 ヒヨドリジョウゴ <i>Solanum lyratum</i>	○			○		
	2008/9/7(駒場2<駒場野公園>)					
247 イヌホオズキ <i>Solanum nigrum</i>				○	○	
	2015/9/7(柿の木坂2)					
248 アメリカイヌホオズキ <i>Solanum ptychanthum</i>					○	
	2001/9/30(中目黒2<中目黒公園>)					
<b>●ムラサキ科</b>						
249 ハナイバナ <i>Bothriospermum zeylanicum</i>	○			○		
	2007/4/9(東が丘2<国立病院東京医療センター>)					
250 ヤマルリソウ*3 都非 <i>Nihon japonicum</i>		○				
	1986/4/23(駒場2<駒場野公園>)					
251 キュウリグサ <i>Trigonotis peduncularis</i>	○			○	○	
	2015/4/26(東が丘2)					
<b>●オオバコ科</b>						
252 マツバウンラン <i>Nuttallanthus canadensis</i>					○	
	2016/4/2(東が丘1)					
253 オオバコ <i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	○			○		
	2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)					

※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。



種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●サギゴケ科</b>						
274 ムラサキサギゴケ <i>Mazus miquelii</i>	○			○		
	2008/5/11(駒場2<駒場野公園>)					
275 トキワハゼ <i>Mazus pumilus</i>				○	○	○
	2021/4/1(柿の木坂3)					
<b>●ハエドクソウ科</b>						
276 ハエドクソウ <i>Phryma nana</i>			○	○		
	2008/8/17(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●ハマウツボ科</b>						
277 ナンバンギセル*4 <i>Aeginetia indica</i>			○			
	1992/9/- (駒場2<駒場野公園>)					
278 ヤセウツボ <i>Orobanche minor</i> var. <i>minor</i>			○	○	○	
	2016/5/19(中目黒2<中目黒公園>)					
<b>●キツネノマゴ科</b>						
279 キツネノマゴ <i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>	○			○		
	2008/8/17(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●クマツヅラ科</b>						
280 クマツヅラ <i>Verbena officinalis</i>					○	
	2018/10/31(青葉台2)					
<b>●キキョウ科</b>						
281 ホタルブクロ <i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>	○			○	○	○
	2022/7/21<目黒通り>					
282 キキョウ*3 国VU 都EX <i>Platycodon grandiflorus</i>				○		
	2009/6/10(中目黒2<中目黒公園>)					
283 キキョウソウ <i>Triodanis perfoliata</i>					○	
	2019/5/22(柿の木坂3)					
<b>●キク科</b>						
284 オオバタクサ *外重点 <i>Ambrosia trifida</i>			○	○		
	2004/7/13(駒場4<駒場公園>)					
285 ヨモギ <i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>				○	○	
	2013/11/8(中目黒2<中目黒公園>)					
286 ユウガギク <i>Aster iinumae</i>				○		
	2004/9/20(大岡山2<東京工業大学>)					
287 カワラノギク*3 国VU 都EX <i>Aster kantoensis</i>		○				
	1986/1/- (駒場2<駒場野公園>)					
288 カントウヨメナ <i>Aster yomena</i> var. <i>dentatus</i>	○			○	○	
	2012/10/13(大岡山2<東京工業大学>)					
289 センダングサ <i>Bidens biternata</i>						○
	2022/9/16(中根1)					
290 コセンダングサ <i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>				○	○	
	2011/10/26(東山3<東山公園>)					

※1:米倉浩司・梶田忠(2007-)「植物和名一学名インデックスYList」(YList), <http://ylist.info> (2023年2月21日)  
 ※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。  
 ※4:植栽・栽培されているものを記録した可能性がある。

種名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
<b>●キク科</b>						
315 コオニタビラコ <i>Lapsanastrum apogonoides</i>				○	○	
	2010/4/9(八雲5)					
316 フキ <i>Petasites japonicus</i> var. <i>japonicus</i>	○	○	○	○	○	○
	2021/2/20(中目黒4)					
317 ハハコグサ <i>Pseudognaphalium affine</i>	○			○	○	
	2017/2/10(目黒本町4)					
318 ハンゴンソウ <i>Senecio cannabifolius</i>			○			
	1998/-/- (三田2<目黒清掃工場緩衝緑地>)					
319 セイタカアワダチソウ *外重点 <i>Solidago altissima</i>				○	○	
	2019/10/9(目黒2<目黒区民センター公園>)					
320 オノゲシ <i>Sonchus asper</i>				○	○	
	2016/4/12(柿の木坂3<駒沢通り>)					
321 ノゲシ <i>Sonchus oleraceus</i>	○			○	○	
	2011/6/5(大岡山1)					
322 シロバナタンポポ <i>Taraxacum albidum</i>			○	○	○	○
	2022/4/10(平町1)					
323 アカミタンポポ <i>Taraxacum laevigatum</i>				○		
	2008/4/9(目黒本町2<清水池公園>)					
324 外来性タンポポ種群 *外重点 <i>Taraxacum</i> spp.	○			○	○	○
	2021/4/1(柿の木坂3)					
325 カントウタンポポ <i>Taraxacum platycarpum</i> var. <i>platycarpum</i>	○		○	○	○	○
	2020/4/2(大岡山2<東京工業大学>)					
326 オオオナモミ *外その他 <i>Xanthium occidentale</i>				○		
	2009/10/9(中目黒2<中目黒公園>)					
327 オナモミ*3 国VU 都EX <i>Xanthium strumarium</i> ssp. <i>sibiricum</i>				○		
	2009/10/1(中目黒2<中目黒公園>)					
328 オニタビラコ(広義) <i>Youngia japonica</i>	○			○	○	○
	2021/4/1(柿の木坂3)					
<b>●ウコギ科</b>						
329 ノチドメ <i>Hydrocotyle maritima</i>			○			
	1997/-/- (東が丘2<東京都立駒沢オリンピック公園>)					
330 チドメグサ <i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>				○		
	2008/6/1(駒場2<駒場野公園>)					
<b>●セリ科</b>						
331 セントウソウ <i>Chamaele decumbens</i>	○					
	1977/4/19(駒場3<東京大学駒場1キャンパス>)					
332 ミツバ <i>Cryptotaenia japonica</i>				○		
	2009/2/7(駒場2<駒場野公園>)					
333 ヤブニンジン <i>Osmorhiza aristata</i> var. <i>aristata</i>				○		
	2008/4/20(駒場2<駒場野公園>)					
334 ヤブジラミ <i>Torilis japonica</i>				○		
	2007/7/6(駒場2<駒場野公園>)					
335 オヤブジラミ <i>Torilis scabra</i>			○			
	1997/5/- (中目黒2<中目黒公園>)					

※3:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)において、区部で絶滅(都EX)、又は非分布(都非)と記載されているため、植栽・栽培されているものか、種名を誤って記録した可能性がある。



# 野草が見られるのはどんな場所？（解析結果）

これまで見てきた野草について、1931年から2022年末までの344種1,181件※1のデータを用いて以下のような視点で解析を行いました。

- 観察種数が多い場所はどこか。
- 多く観察されている場所の環境※2はどのようなものか。

特に観察種数が多かったのは、駒場2丁目(166種)、大岡山2丁目(85種)、中目黒2丁目(79種)、駒場3丁目(68種)の4地域でした。町丁目ごとにみると、自然的土地利用率高(緑被面積+水面面積+裸地面積の割合)が高いほど、観察種数が多い傾向がみられました(図1)。

また、古くから身近に見られるカントウタンポポと、1900年ごろから日本で見られるようになった外来性タンポポ種群(いわゆるセイヨウタンポポなど)の観察例数を整理しました。町丁目ごとにみると、カントウタンポポは、自然的土地利用率高いほど観察例数が多い(図2左)、外来性タンポポ種群は草地が占める割合が高いほど観察例数が多い傾向がみられました(図2右)。

カントウタンポポは里山に近い多様な自然環境が残された地域に多く、外来性タンポポ種群は都市化に伴い出現した草地環境に多いと考えられます。

※1: 前述の野草リストに掲載されているイヌムギ、コボタンツル、コニシキソウの3種は、確認地点の記録が町丁目まで残っていないため、解析から除外。  
 ※2: 環境条件としてみどりの実態調査(目黒区:2015)を使用。

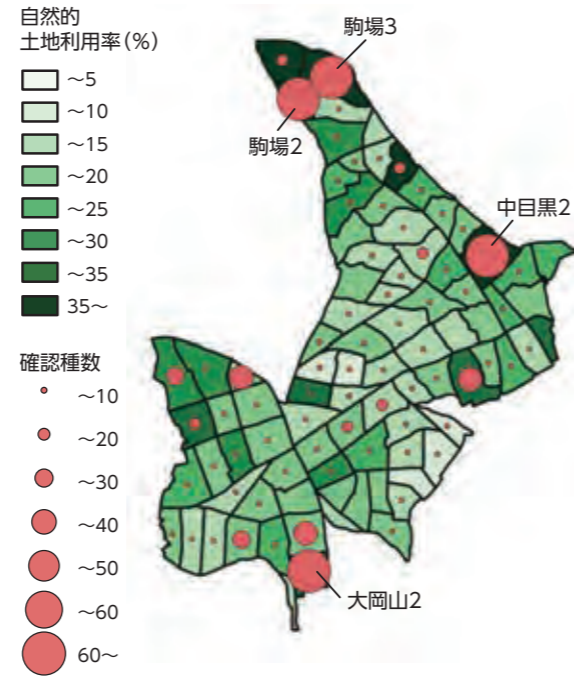


図1. 町丁目別の自然的土地利用率和野草観察種数

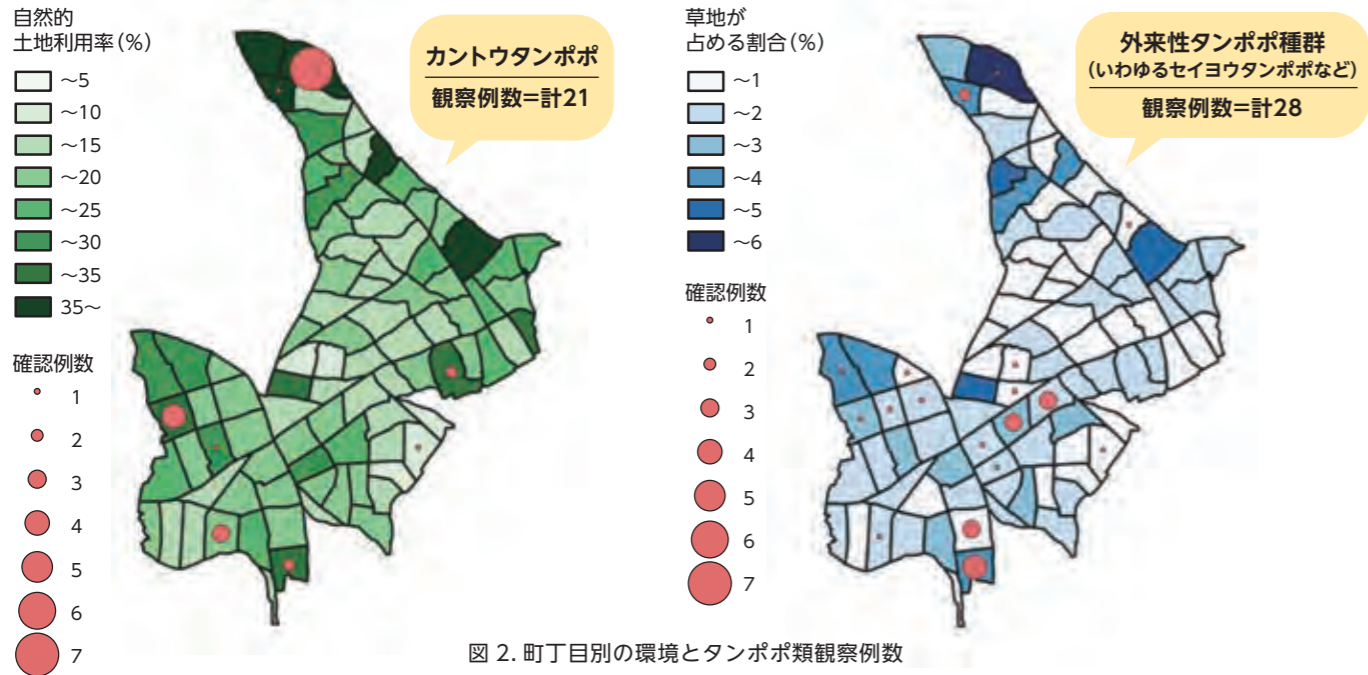


図2. 町丁目別の環境とタンポポ類観察例数

**野草が見られるのはこんな場所!**

- ① みどりや水辺、裸地など多様な自然環境があるところ
- ② 都市化に伴い出現したような環境では外来種などが多くみられる

● 参考資料等  
 「植物のふしぎ」(2011:小林正明)  
 「調べてみよう名前のみみつ 雑草図鑑」(2017:亀田龍吉)  
 「タケの大研究 ふしぎな生態、人とかかわりをさぐる」(2019:内村悦三)  
 「タケ・ササ総図典」(2014:内村悦三)  
 「帰化&外来植物 見分け方マニュアル950種」(2020:森昭彦)  
 「植物なんでも事典 ぜんぶわかる!植物の形態・分類・生理・生態・環境・文化」(2019:柴田規夫)  
 「写真で見る植物用語」(2015:岩瀬徹、大野啓一)  
 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト(国土交通省 水管理・国土保安局 閲覧日:2023年2月13日) http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukoku-web/system/seibutsuListfile.htm  
 「日本の外来種対策」(環境省 自然環境局 閲覧日:2023年2月13日) https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html  
 「メダケ属ネザサ節植物の東西日本における分枝形態の分化」(植物地理・分類研究 70(2): 127-134 (2022):三樹和博)

● 目黒区の資料  
 「目黒区みどりの基本計画」(2016:目黒区)  
 「目黒区のみどりーみどりの実態調査報告書」(2015:目黒区)  
 「目黒区生物多様性地域戦略ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」(2014:目黒区)  
 「めぐろのいきもの80選」(2014:目黒区)  
 「みどりの散歩道コースガイド改訂版」(2017:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥」(2015:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蝶と蛾」(2016:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 土をめぐる生物」(2018:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蜘蛛」(2019:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の甲虫」(2020:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 暫定版リスト」(2009:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の水辺のいきもの」(2021:目黒区)  
 「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の手」(2022:目黒区)  
 「目黒区ホームページ」  
 ・目黒の地名 菅刈(すげかり)(閲覧日:2023年2月17日) https://www.city.meguro.tokyo.jp/smph/gyosei/shokai\_rekishi/konnamachi/michi/chimei/hokubu/sugekari.html  
 ・目黒の地名 油面(あぶらめん)(閲覧日:2023年2月17日) https://www.city.meguro.tokyo.jp/smph/gyosei/shokai\_rekishi/konnamachi/michi/chimei/chuo/abura.html

● 目黒区の生物多様性とみどりのまちづくりについて  
 (野鳥のすめるまちづくり計画・いきもの住民台帳・みどりの実態調査・みどりの基本計画など)  
<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/ikimono/tayosei.html>

● 自然通信員について  
 (事業の紹介、ニュースレターのダウンロードなど)  
<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/ikimono/johokyoku/download.html>

● 作成協力 岩槻 秀明  
 ● イラスト 水谷 高英  
 (区民による身近な生物調査環境学習資料)

● 写真 岩槻 秀明  
 中西 由美子  
 自然通信員のみなさん ほか

● カラー版 ダウンロード  
 (ホームページでは観察記録の詳細も公開予定です)  
[http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/tokei/chosa\\_hokoku/ikimono\\_daicho.html](http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/tokei/chosa_hokoku/ikimono_daicho.html)

めぐろグリーンデータブック 2022 目黒区いきもの住民台帳 -身近に暮らすみどりのなかまたち-

**目黒区の野草 List of wild grass of Meguro City**

発行 初版 2023 (令和5)年3月31日 目黒区©  
 〒153-8573 目黒区上目黒 2-19-15  
 目黒区都市整備部みどり土木政策課みどりの係《めぐろいきもの气象台》  
 電話: 03-5722-9355 (直通) FAX: 03-3792-2112 E-mail: sizen@city.meguro.tokyo.jp  
 印刷 有限会社ジンキッズ  
 制作・編集 アオイ環境株式会社

主要印刷物番号  
4-51



(本冊子は区政情報コーナー・区立図書館で閲覧できます)



# 目黒区緑化都市宣言

みどりのまちをつくるちかい

思い出してほしい  
わたしたちがみどりの中に 生まれ  
育ったことを  
青い空 木々のこもれ日 季節のささやき  
よびかけてる 誰もみな みどりの仲間だと

忘れないでほしい  
木も草も 虫も鳥たちもともに暮らす  
大切な家族  
だから今 かけがえのない 母なる地球を  
みんなで分けあっていこう

さあ 始めよう  
ひと粒の小さな種をまくことから  
大地に根をはり  
すくすく枝をのばし  
鳥たちがうたい  
人びとがやすらぐ  
一本の木の種

わたしたちの手で わたしたちの心に  
こどもたちに伝える  
森をつくろう

1990年10月28日



国連生物多様性の10年-自然と共生する社会を目指して  
目黒区は生物多様性地域戦略を推進しています



目黒区生物多様性地域戦略  
ささえあう生命の輪  
野鳥のすめるまちづくり計画

## 自然情報・自然通信員募集

庭や公園、校庭などで観察した1つ1つの観察記録がみどりを守り、回復していく貴重な資料になります。年月日、種名(はっきりわからないときは○○類、○○のなかまとします)、場所(公園名、お庭などの町名番地)、いた環境、個体数などの観察した内容、あれば写真などをみどり土木政策課みどりの係まで郵便・FAX・メール(連絡先は27ページを参照)でお送りください。お送りいただいた方は自然通信員として登録し、年数回、調査結果などをまとめたニュースレターを郵送いたします(無料)。